

検査科職員の日(標準的なケース)

病理担当

包埋&染色

検査室の機械類を立ち上げる。
担当症例のパラフィン包埋を行う。
自動染色機で染色を行う。



解剖

解剖業務を行う(一人につき最大2件)。
病理検査用組織のホルマリン固定を行う。



切り出し・封入

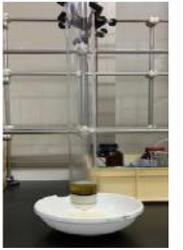
病理検査用組織の再整形を行い、カセットに詰める(この時、医師が必要とする所見を考えながら整形を行う)。
染色機で染色した切片を封入する。



薬化学担当

分析前処理

血液、胃内容物から夾雑物を取り除き、薬毒物抽出を行う。
分析機器を立ち上げる。
HPLCでは移動相への置換を行うなど、各分析機器を分析可能な状態にする。



分析開始

抽出試料をHPLC、LC-MS/MS、GC-MSの各分析機器を用いて定性分析を行う。
GCを用いて血液と尿中のアルコール分析、そして血液中の一酸化炭素と青酸分析を行う。
分光光度計を用いて血液中の一酸化炭素ヘモグロビン(CO hb)飽和度測定を行う。



検体受付

解剖時に採取した検体を検査項目ごとに分注する。
外部委託検査項目は依頼書を作成し、検体の準備を行ったあと、集荷担当者対応をする。

8:30

9:30

10:30

11:00

12:00

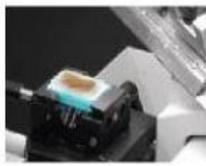
昼休憩

解剖

解剖業務を行う(一人につき最大3件)。
病理検査用組織のホルマリン固定を行う。

薄切

午前中に包埋したブロックを薄切する。
症例・病態に対応した特殊染色を考えながら、切片作製を行う。



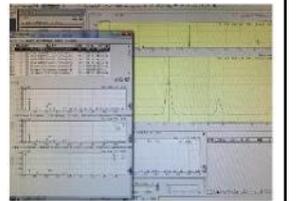
染色性確認&標本提出

染色した切片の染色性を確認した後、医師へ標本を提出する(この時、追加で必要な染色が想定されれば染色を行う)。



分析終了

各検体ごとに検出されたピークを解析し、薬毒物の同定を行う。
薬毒物が検出されたら、定量分析用の検量線を作成し、改めてLC-MS/MSまたはGC-MSによる定量分析を行う。



検体受付

解剖時に採取した検体を検査項目ごとに分注する。
外部委託検査項目は依頼書を作成し、検体の準備を行ったあと、集荷担当者対応をする。

結果まとめ&報告

すべての結果がそろったら検査報告書を作成し、担当監察医へ提出する。

13:00

15:30

16:00

16:30

17:15

退勤